

ラグビーワールドカップ2019日本大会

開催希望申請書を提出

市は10月31日、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催希望申請書を県と共同で同大会組織委員会に提出しました。野田市長と県政策地域部の大平副部長が組織委員会の嶋津昭事務総長を訪問し、市長と達増知事連名の申請書を提出しました。提出を終えて野田市長は「三陸沿岸被災地の復興の後押しになれば」と、意気込みを述べました。

ラグビーワールドカップは平成31（2019）年9～10月開催で、20カ国参加・計48試合が予定されており、来年3月に国内10～12の試合会場が決まる見通しです。市では、鶴住居地区に試合会場を想定したスポーツ施設整備を計画しています。当市での開催を通じ、心の復興と未来の夢や希望、支援に対する世界への感謝などにより、真の復興の実現を目指すとともに、世界ラグビー史に新たな1ページを刻みます。

ラグビーワールドカップ2019開催立候補地（14カ所）

札幌市／岩手県・釜石市※／仙台市／埼玉県・熊谷市※／東京都／静岡県／愛知県・豊田市※／京都市
大阪府・東大阪市※／神戸市／福岡市／長崎県／熊本県・熊本市※／大分県 ※は連名での立候補

鶴住居スポーツ施設整備事業について
当市では、多くのスポーツ施設や公園が被災、また、仮設住宅用地として利用されており、市民がスポーツやレクリエーション活動を楽しめる場所が大きく減少しています。そこで、被災した鶴住居小・釜石東中跡地に、市民が集い、スポーツのほか各種イベントなどにも活用可能な一鶴住居スポーツ施設（仮称）を整備することとしており、平成29（2017）年3月完成を目指します。

【内容】フィールド2面（天然芝）。うち1面に約1000席の常設スタンド（1階建て）、別の1面には外周に陸上トラックを整備。



大会組織委員会の嶋津事務総長（右）に申請書を提出する野田市長（中央）と県の大平副部長（左）

全体の整備事業費（概算）

●鶴住居スポーツ施設整備事業	
事業費	約15億5,300万円①
うち市負担額	約6億8,600万円②
●ワールドカップ開催（競技場建設）費	
事業費	約11億6,700万円③
うち市負担額	約2億9,200万円④
●全体見込み（最大）額	
事業費（①+③）	約27億2,000万円
市負担額（②+④）	約9億7,800万円

※補助財源には、復興交付金、スポーツ施設整備に関する助成金などの活用を想定。このほか国の補助金が認められた場合、市負担額は約6億3,500万円に減額の見込み。

試合会場の整備に向けて：
来年3月、開催地に決まった場合、ワールドカップ開催の前年となる平成30（2018）年使用開始に向けて、同スポーツ施設に試合会場となる競技場（仮設スタンド・約14000席など）を建設します。

■問い合わせ
市スポーツ推進課ラグビーワールドカップ誘致推進室
（☎22-8836）

都市計画用途地域を 変更しました

市は、被災市街地復興土地区画整理事業などの面的整備事業によって形成される新しい市街地の適正な土地利用を図るため、10月8日付けで都市計画用途地域を変更しました。

用途地域を変更した地区は、片岸、鶴住居、根浜、東部、平田の5地区です。併せて、これらの地区では関連する都市計画の決定・変更を行っています。変更の詳しい内容は、市ホームページ「都市計画決定」に掲載しているほか、市都市計画課で図書を縦覧いただけます。5地区の変更計画図は下のとおりです。

用途地域とは？

都市計画法に基づき、住居・商業・工業など市街地の土地利用の大枠を定めるものです。それぞれの用途地域の目的に応じて、建てられる建物の種類や規模などが建築基準法で規定されています。

問い合わせ

市都市計画課
☎22-2111
内線432

5地区の変更計画図

片岸地区



鶴住居地区



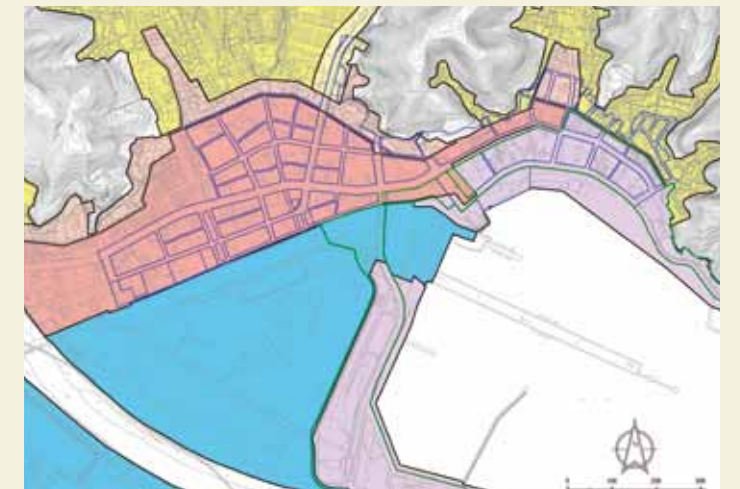
根浜地区



※災害危険区域（第1種区域）に指定されている土地は、用途地域の種類にかかわらず、住宅などの建築はできませんのでご注意ください。

用途地域	建ぺい率(%)	容積率(%)
第一種低層住居専用地域	40	80
第一種中高層住居専用地域	60	200
第二種中高層住居専用地域	60	200
第一種住居地域	60	200
第二種住居地域	60	200
近隣商業地域	80	200
近隣商業地域	80	300
商業地域	80	400
準工業地域	60	200
工業地域	60	200
工業専用地域	60	200
計画道路等		
災害危険区域（第1種区域）		

東部地区



平田地区

